

6月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

イスラエル、米国とイランとの戦い、そしてトランプ大統領の言動に翻弄された日々であった。イランにウランは「いらん」ののだが、言うことを聞かないと平気で爆撃しあう国際情勢。世界の指導者たちはスーツ姿で会議ばかりをやっているが、死んでいくのは兵隊と市民。そして利益を得るのは軍事産業である。「武」という字は「戈」を「止（やむる）」という二字を合わせて作られたという。戦いはバスケットボールのゲームでたくさんである。

1・テレビから

◆「私たちは常に何者かになる過程にあるのであって、不変なものは何一つない。私たちの中には、常に変わり続ける世界に対して変化する柔軟性がある。流れる水がそうであるように止まると腐っていくのだ。勇気を持って進もう友よ。未来は君が心に秘めた大切な夢が手に届く場所と時間だと信じるんだ」〈NHKBS・映像の世紀・バタフライエフェクト『香港百年のカオス』〉：今は亡き香港映画のスーパースター・ブルース・リーの生前の言葉である。カンフー映画で発する「アチョー！」の奇声は何度真似したことか。NBAのレジェンド・ジャバーも彼の映画に悪役で出演していた。夢見ることをやめた時、その青春は終わる。

◆「一度逃げたら二度逃げる、三度逃げる。ここは引けない。ここは自分の生きて行く人生、下がるのも人生、前に進むのも人生。同じ人生なら前に出る」〈番組名加齢のため忘却〉：逃げると、逃げただけの人生が次に来る。甘えると甘えただけの人生が次に来る。自分の力で正面からぶちあたり、それを乗り越えるしかない。バスケットもコンタクトが主流。

2・読書から

◆「生の治療は、念々たえざる死の恐怖の襲来によってのみ得られる。今日とはいはず、明日とはいはず、今の刹那のみ生きてあると思うて、刹那の生活を充実させなければならない」〈『講座日本思想4 時間』東京大学出版会〉：吉田兼好の言葉であるが、残り時間の少なくなった私には身につまされる。要領よく生きることよりも真剣な初心者として過ごしたい。

◆「不可能とは単に少し時間がかかることである」〈E・H・シャイン著『組織文化とリーダーシップ』ダイヤモンド社〉：今評判の良くない米国の仕事に対する考え方の中心的なものであるという。対するにはタフであることが原則である。コーチングも同じ。

3・新聞から

◆「女性に言われて男性が喜ぶ言葉として“さしすせそ”が知られています。さすが/知らなかった/すごい/センスがいい/そうなんだ」〈朝日・解説〉：モテ・テクとして小学生の女子に指南する本もあるという。他人の言葉をうのみにする昨今、調子に乗らないよう自戒しよう。

◆「一緒に演奏する人を幸せにできる人こそが、本当の名人なんですよ」〈朝日：折々のことば・堀米ゆず子〉：バスケットでも一緒にプレーしていると周囲を上手にしてしまう選手がいる。今シーズンのNBAペイサーズのハリバートン、真のスーパースターだと思う。